

## 記 事

# 演習林記事

昭和55年度

## I 人 事

- 1) 前林長中島幸雄教授の任期満了に伴い、昭和55年4月1日付、伏見知道教授が新林長に就任した。
- 2) 昭和55年4月1日付、文部技官尾上肇は退職した。
- 3) 昭和55年4月1日付、中村律子事務補佐員は補導係へ配置換えになった。
- 4) 昭和55年4月1日付、渡部広子(旧姓池谷)が事務補佐員に採用された。
- 5) 昭和55年6月1日付、河野修一が文部技官(農学部演習林係)に採用された。

## II 施設・設備

昭和55年度に、米野々演習林管理事務所の建物の取り壊し新築が決まり年度内に新営工事が始まった。それに伴う隣接民有地の購入を計画し、年度末に実現した。また、演習林内溪流整備については、かねてから、県や建設省関係の先輩諸氏の助言も得て対策を考慮していたところ、愛媛県が昭和56年度概算要求事項に採用し、国の予算が認められ、予防治山事業として谷止工(治山堰提)を長井田下流に建設することとなった。そこで、これら施設整備が実現するに至った経緯及び内容について書きとどめることにした。なお、建物新営、隣接民有地の購入については、高岡前事務局長、百武経理部長、高田施設部長その他関係諸氏には多大の御尽力をいただいた。ここに記して謝意を表す。

### 1) 米野々演習林管理研究棟の新営及び敷地の拡張整備

愛媛大学農学部附属演習林にあった、米野々演習林管理事務所の建物は、昭和33年に建築されたものであったが、当初から古材を使用していたことなどのため老朽化が著しく、また近年諸大学の設備が整備されてゆく中で、本大学内は勿論、他大学の同種設備に較べても、年々格差の増大が目立ち、早急の改築整備が切望されていたところである。

昭和55年度初めに農学部関係建物の建築計画順位としては最後にランクされているものの、年度内には目途を立てたい、という事務局長の説明があった。したがって、演習林としてもかねての素案をもとに、望ましい形式について、部内で検討を始めていたところ、5月28日に「演習林建物新営」に関する資料を整え、5月29日に施設部にて説明するようとの連絡があった。ここで、にわかに、建物新営の具体的な話しが、大学施設部と本省(先づは高松工事事務所)との間で始まることになったわけで、勿論、早急に決定に至るか否かは予断を許さぬとはいうものの、あわただしさの中にも、活気に満ちた状況が展開したのであった。

5月29日施設部において、建物新営の必要理由書及び平面図により演習林としての希望案等を説明した。建設位置を従来地とするならば、隣接地(水田及び雑地)の入手はできないのか、実験内容と関連した廃水処理法、暖房の方法等について討議し、組織機構図、学生実習等実績及び気象データを翌30日に持参することになった。建物規模については、学生及び教官定員に従っておのづから基準があり、演習林の原案である2学級同時実習を目指した宿泊50名の要望は、実現困難ということであった。翌30日も同趣旨の説明を行い、研究室は変則2講座相当とし、学生実習については他学科等の利用も含めて前年度実績例を主とした説明及び今後の実習利用計画等について案文し、5月31日に提出した。その結果最終的には施設部長の努力のおかげで、他学科学生の利用も可能にするところ

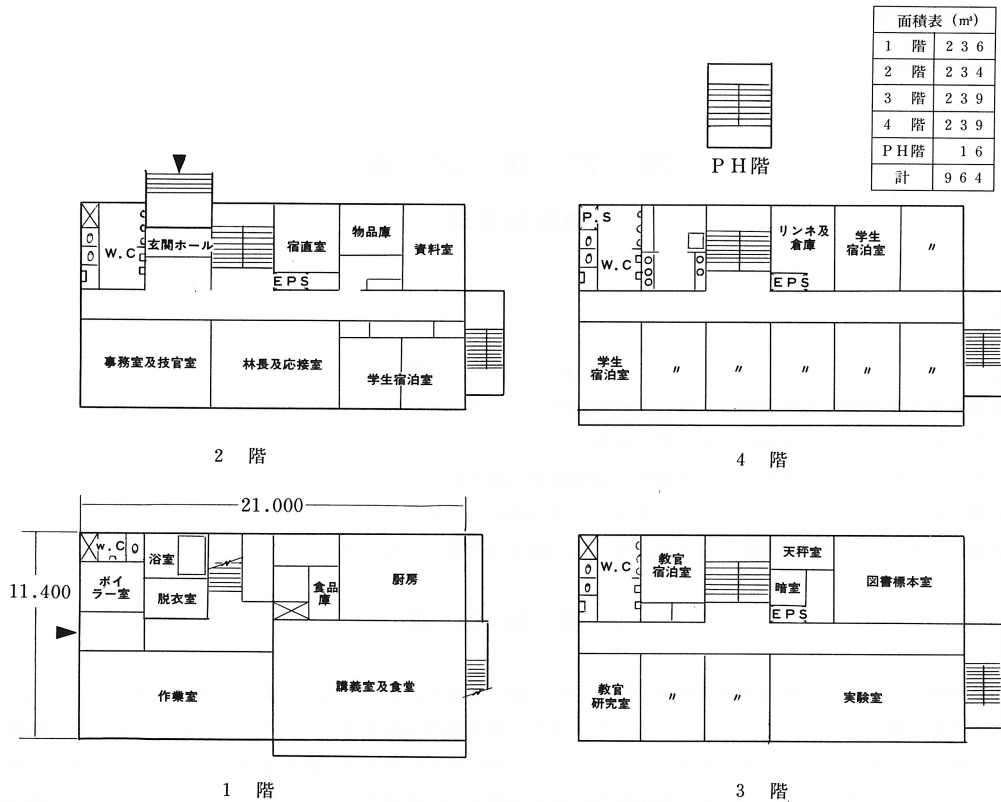


図-1 米野々演習林管理研究棟平面図

の学生宿泊数32~40人規模ということで決定することとなったのである。また、5月31日には、事務局長、経理部長、主計課長、施設部長、企画課長、同課長補佐、施設課長と一同で会談し、建物新営につき説明した。当初、敷地が狭いということで3階建て案であったが、基礎面積をさらに縮小し4階建てと決まった。各階の平面図を図-1に示す。

建物建設位置について、椋皮田地区（1林班の入口附近）に地形、広さ等からいって適地があるのではないかと、この考えもあつたが流域内終端村落のバス停から徒歩40分以上で、交通機関、配電皆無及び演習林内各地区に対する到達林道の配置関係から現状では、現在地とせざるを得ないと判断しているということでした承された。だが、現在地は狭小に過ぎ、建物新営に当って、用地の手配はできなかつたかという批判があつた。新棟建設に伴い、車庫、燃料庫その他倉庫用地を割り当てた場合、用地問題はきわめて深刻となるので、職員及び実習学生用の駐車場、試験用圃場、機械実験実習場等建物の周辺用地の整備について予算要求することとなった。その結果、現在地に隣接する水田及び雑地の購入が昭和56年3月に実現した。

米野々演習林管理研究棟新営関係の工期、工費、敷地購入等は次の通りである。

新営建物建設工期

着工 昭和55年11月9日

竣工 昭和56年5月31日

工費・施工業者等

新営建物本体工事その他 9377万円 松山土建株式会社

新営建物電気工事 1240万円 松山電設工業株式会社

新営建物給排水その他工事 2400万円 第一重工業株式会社

米野々演習林管理研究棟敷地（隣接民有地）の購入

購入面積 1483.91㎡ 購入額 3,380,000円

## 2) 演習林溪流の整備

### 第20号予防治山谷止工の建設

演習林内溪流を中心とする治山砂防対策については、かねてから重視し、森林工学研究室の協力を得て、椴皮田及び長井田流域に関する計画を成案（演習林報告第14号）している。そこで先づ、長井田本流の下流で、豪雨により山腹崩壊が重なった谷と合流して生じた堆積区域の下端に予防的堰提工を計画した。これについて、石手川ダムの水源地域でもあり、隣接民有林、集落地域の長期的にみた保全上の必要性が高いということで、地元松山市、愛媛県との理解、協力が得られることとなり、国に対する昭和56年度の予算要求が承認され、実現することになったのである。予防治山第20号谷止工として昭和56年7月着工し、9月末には完成の予定である。その構造は図-2に示す。なお、本谷止工の下流に接続して量水観測堰の建設を計画している。

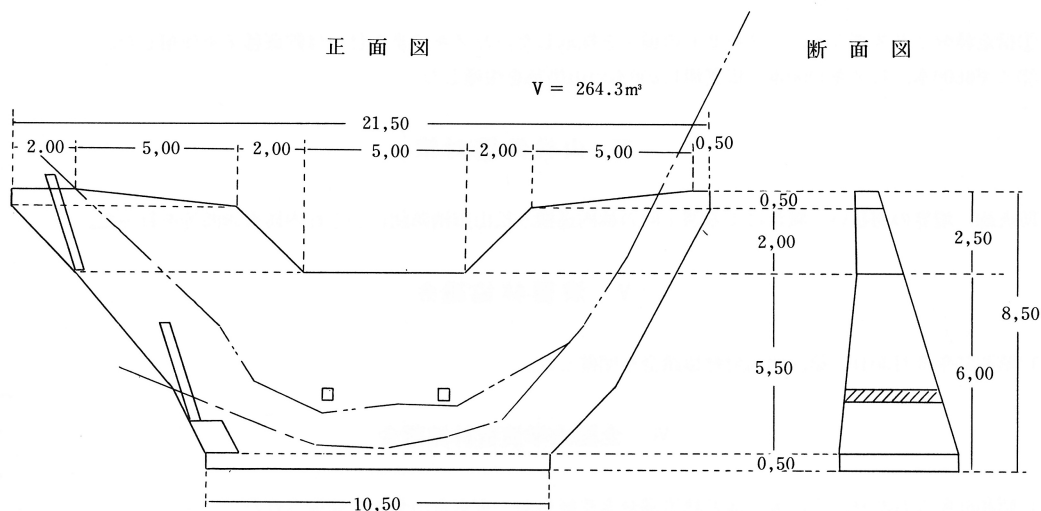


図-2 谷止工構造図

## III 経 営

### 1) 生産

- ① 2林班に、わ小班内2.42haの立木702.59m³を松山市森林組合との伐木造集材作業請負契約により伐採し、スギ、ヒノキ素材477.430m³、モミ外広葉樹203.305m³計680.735m³を生産した。
- ② 2林班を小班内に試験地設定のため支障木14.26m³を職員により伐採、広葉樹10.031m³を生産した。

### 2) 販売

- ① 間伐による前年度生産分スギ素材107.139m³は、新建設工業KKへ2,263,000円で売払った。
- ② 今年度生産分のうち、広葉樹材157.837m³は、伊予木材KKへ1,700,000円で売払い、モミ外広葉樹55.499m³は491,000円で丸和林業KKへ売払った。
- ③ スギ、ヒノキ素材477.430m³の販売は翌年度に繰越した。
- ④ 今年度総収入額は、4,454,000円である。

### 3) 植付

①当年度伐採跡地2.42haにスギ5,600本, ヒノキ3,500本, 広葉樹(コナラ, ミズナラ, クヌギ)1,200本を植付けた。

②前年度植付地(1林班つ小班)にスギ1,000本, ヒノキ500本を補植した。

### 4) 育林

①幼齢造林地30.3haについて下刈を行った。(請負26.3ha, 職員4.0ha)

②要除伐林分のうち3.5haについて除伐を行った。

③1林班ほ小班内2.0ha, 1林班へ小班内2haについて枝打を行った。

### 5) 種苗

①指定林分よりスギ5ℓ, ヒノキ2ℓの種子を採取した。ヒノキのまき付けは貯蔵種子を使用した。

②スギ6600本, ヒノキ4000本, 広葉樹1,200本の山出苗を生産した。

## IV 山林保護対策

防火線, 境界の刈払い, 職員による週1回の林内巡検, 松山市消防団による林内防火診断等を行った。

## V 演習林協議会

1) 昭和55年6月30日, 第36回演習林協議会を開催した。

## VI 全国大学演習林協議会

1) 昭和55年5月22日, 全国大学演習林協議会春季総会が, 東京青山会館で開催された。

2) 昭和55年9月25, 26日, 全国大学演習林協議会秋季総会が, 北海道大学百年記念会館で開催された。

## VII 学生の実験・実習

昭和55年度中, 演習林において実施された学生の実験・実習は下記の通りである。

### 1) 勝山試験地

育苗実験・実習は, 年間を通じて実施された。学生数25名。

### 2) 米野々演習林

実習科目	期間	学生数	担当教官数
演習林実習	55. 9. 1~55. 9. 4	24名	2名
森林工学実習	55. 10. 1~55. 10. 4	11名	2名
森林計画学実習	55. 10. 4~55. 10. 7	4名	2名
植物生態学及び実習	55. 9. 5	36名	2名

造林学実習, 林木測定学実習は, 宿舍改築中のため翌年度に行うこととした。

## VIII 試 験・研 究

1) 演習林協議会の議を経て、愛媛大学農学部演習林報告編集委員会内規、愛媛大学農学部演習林報告投稿要領を下記の通り制定した。

### 愛媛大学農学部演習林報告編集委員会内規

(設置)

第1条 愛媛大学農学部演習林報告の編集を行うため、愛媛大学農学部演習林報告編集委員会（以下「委員会」という）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の委員をもって組織する。

(1) 演習林長

(2) 林学科の各講座主任

(審議事項)

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

(1) 編集計画ならびに実施に関する事項

(2) 論文の募集、受理、掲載に関する事項

(3) その他委員会において必要と認められた事項

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、演習林長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、司会する。

(編集幹事)

第5条 編集に関する事務を処理するため、幹事1名を置き、演習林次長をもって充てる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、演習林係長が処理する。

附 則

この内規は、昭和55年6月30日から施行する。

### 愛媛大学農学部演習林報告投稿要領

1. 原稿は、論文・資料とし、未発表のものとする。なお、本学演習林の林地・林木などを対象としたものが望ましいが、必ずしもこれに限度はしない。
2. 原稿は、別に示されない場合は、8月末日までに提出するものとする。
3. 原稿の体裁は、日本林学会誌投稿規定（昭和49年8月8日改定）を参考にして整えること。
4. 原稿の採否は、編集委員会で決定する。

(昭和55年6月30日制定)

2) 演習林内に設定され、継続して測定調査等の行われている試験地については省略する。

3) 昭和55年度中に研究室等が演習林を利用した調査研究等の概略は次の通りである。

- ① 林内における降雨波形の変換（土地改良学）
- ② スギクローンの耐陰性について（森林計画学）
- ③ 米野々演習林におけるモミ、ツガ天然生林分構成について（森林計画学）
- ④ 雨水侵食に関する実験的研究（森林工学）
- ⑤ 米野々演習林の土壌に関する研究（造林学）
- ⑥ 根元直径生長量による林分生長量の推定（森林計画学）

⑦ヒノキ同齡林への択伐作業の適用（森林計画学）

⑧昆虫相調査（応用昆虫学）

⑨藻類生産量調査（理学部生物学科生態学）

⑩野鳥調査（日本野鳥の会愛媛支部）

⑪合宿研修（教育学部学生心理学研究会）

4) 気象観測の結果は、別表に示す。

5) 昭和55年12月、演習林報告第17号500部を発行した。

### IX 学部庭園管理

庭園の経常的維持管理のほか、運動場国旗掲揚台周辺、その他庭園内一部の樹木刈込み等の補植、改植を行った。

### X 昭和55年度予算および決算

#### 歳入予算

収 入 予 定 額	11,000,000円
-----------	-------------

#### 歳入決算

収 入 額	4,454,000円
-------	------------

#### 歳出予算

(校 費)

演 習 林 経 費	18,297,000
理 工 系 学 部 設 備 費	3,000,000
実 習 施 設 設 備 費	2,000,000
普 通 庁 費	13,720
教 官 当 積 算 校 費	938,016
特 定 研 究 費	140,000
自 動 車 維 持 費	47,500
設 備 更 新 費	198,000
予 算 節 約 額	△ 105,792
謝 金 流 用	△ 36,000
調 整 額	△ 1,405,905
計	23,086,539円

#### 歳出決算

(校 費)

生 産 事 業 費	5,456,533
育 林 事 業 費	2,284,000
種 苗 事 業 費	1,071,732
土 木 事 業 費	1,786,689
諸 調 査 費	54,200
実 習 ・ 研 究 費	1,805,347
演 報 発 行 費	628,830
自 動 車 維 持 費	874,472
管 理 費	4,121,986
設 備 費	5,002,750
計	23,086,539円

(旅 費)

演 習 林 旅 費	698,000
会 議 出 席 旅 費	74,962
連 絡 旅 費	12,000
教 官 研 究 旅 費	185,036
予 算 節 約 額	△ 13,423
付 替 額(実 習)	△ 79,200
計	877,375円

(旅 費)

演 習 林 事 業 旅 費	337,855
会 議 出 席 旅 費	311,620
連 絡 旅 費	16,160
教 官 研 究 旅 費	199,940
実 習 関 係 旅 費	11,800
計	877,375円

昭和55年氣象觀測結果

別表

種目別	月別												年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
気	平均	1.4 (1.6)	0.1 (2.3)	5.2 (5.2)	9.9 (10.8)	15.1 (15.2)	19.1 (19.2)	21.4 (23.2)	21.8 (23.6)	18.7 (19.7)	13.6 (13.9)	8.4 (8.3)	0.9 (3.2)	11.3 (12.2)
	最高	平均	6.8 (7.0)	6.2 (7.8)	11.5 (11.1)	17.0 (17.9)	22.3 (21.9)	26.9 (28.6)	26.8 (28.9)	25.1 (25.6)	19.1 (20.3)	15.1 (14.7)	5.6 (9.3)	17.3 (18.2)
		極	15.2 (16.5)	12.6 (19.0)	21.2 (23.4)	22.2 (27.2)	28.4 (31.6)	29.2 (30.6)	31.8 (33.2)	30.0 (33.0)	32.2 (32.2)	24.8 (28.2)	19.4 (24.2)	13.8 (17.4)
	最低	平均	-1.5 (-2.9)	-4.5 (-2.4)	-0.4 (-0.3)	2.7 (4.4)	8.1 (8.9)	14.9 (14.6)	18.0 (18.6)	18.7 (18.9)	14.3 (15.1)	9.4 (9.1)	3.7 (3.2)	-1.6 (-1.3)
極		-7.6 (-8.6)	-9.5 (-10.5)	-3.6 (-7.2)	-1.6 (-5.5)	-0.4 (-0.4)	7.2 (5.0)	14.4 (12.7)	15.5 (11.3)	9.0 (5.0)	-0.2 (-0.2)	-1.9 (-5.5)	-6.5 (-8.0)	
湿度	平均	76 (74)	71 (73)	79 (70)	74 (69)	76 (72)	83 (71)	86 (81)	83 (80)	81 (81)	83 (78)	84 (78)	79 (77)	79 (75)
度	極	22 (15)	18 (14)	7 (7)	15 (8)	17 (7)	25 (12)	39 (10)	48 (29)	41 (19)	36 (16)	36 (10)	42 (15)	
降水	月	94.0 (83.3)	45.9 (93.7)	204.4 (109.2)	120.0 (189.7)	326.4 (169.5)	290.5 (334.3)	538.3 (201.9)	466.4 (244.3)	187.3 (252.8)	214.9 (155.0)	75.9 (102.4)	109.6 (79.7)	2,673.6 (2,015.8)
水	日最大	17.1 (91.3)	16.3 (48.6)	51.9 (51.9)	37.9 (129.4)	104.5 (104.5)	60.4 (218.2)	89.1 (113.5)	63.9 (300.5)	61.3 (271.0)	102.7 (102.7)	52.9 (52.9)	39.9 (39.9)	
量	6時間最大	15.3 (28.5)	12.0 (23.3)	38.5 (38.5)	31.4 (44.5)	57.0 (57.0)	31.4 (147.7)	37.7 (61.6)	46.2 (169.5)	29.2 (161.5)	61.8 (61.8)	45.2 (45.2)	20.7 (22.5)	
蒸発	月	25.1 (29.5)	38.2 (32.5)	50.1 (60.5)	66.1 (70.9)	77.7 (84.5)	49.4 (66.6)	49.1 (86.8)	45.5 (89.5)	56.5 (67.0)	41.4 (51.1)	21.5 (32.9)	17.4 (27.3)	538.0 (699.1)
量	日最大	2.1 (2.8)	4.4 (4.4)	4.1 (5.5)	5.0 (6.9)	4.5 (7.1)	4.3 (7.0)	4.4 (8.5)	4.1 (8.4)	3.3 (5.7)	3.1 (3.9)	1.4 (4.6)	1.4 (3.8)	

( ) 内は、昭和45～年55年の平均値および極値を示す。